

## 動物組織からのゲノムDNA抽出

Extraction of genomic DNA from animal tissue

動物組織から簡便、迅速に高純度のゲノムDNAを抽出します。

● **簡単操作**

前処理不要。サンプルのアプライだけで自動的にゲノムDNAを回収します。

● **ユーザーフレンドリー**

遠心分離や有害な有機溶剤が不要です。タンパク質やカオトロピック塩を含まず、高純度のDNAが得られます。

● **高速処理**

最大8サンプルの処理が可能です。抽出から測定まで約25～45分。

● **濃度・純度測定**

吸光度計内臓で核酸の濃度・純度を同時に測定します。(260, 280, 320nm)

### プロトコール

サンプルアプライ

- ↓ サンプルの溶解・・・・・・・・・・・・（溶解・吸着液）
- ↓ Genomic DNA吸着・・・・・・・・・・・・（磁性ビーズ）
- B/F分離
- ↓ 非特異的吸着物の除去・・・・・・・・・・・・（洗浄液1）
- B/F分離
- ↓ タンパク質変性剤の除去・・・・・・・・・・・・（洗浄液2）
- B/F分離
- ↓ DNAを磁性ビーズから溶出・・・・・・・・・・・・（溶出液・滅菌水）
- B/F分離
- ↓ 磁性ビーズを除去
- ↓ **ゲノムDNA回収（100μl）**
- ↓ **吸光度測定による濃度及び純度の算出**

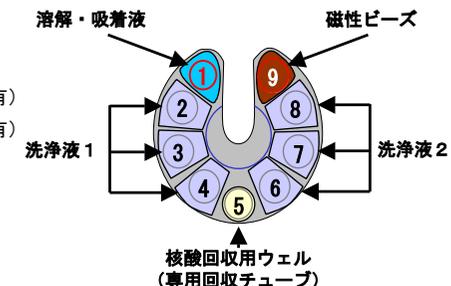
操作は自動で行います

### プレパック内容物

試薬類は全てプレパックになっています。

プレパック試薬には

- ①に溶解・吸着液（タンパク質変性剤含有）
  - ②③④に洗浄液1（タンパク質変性剤含有）
  - ⑥⑦⑧に洗浄液2（エタノール含有）
  - ⑨に磁性ビーズが充填されています。
  - ⑤には回収チューブを装着します。
- 出荷時には何も入っていません。



### マウス組織からのゲノムDNA抽出の実施例

サ ン プ ル	マウステール
対応サンプル量	組織片を2～5mm程度(ハサミで切る)
使用キット	MagGenex Genomic DNA用キット
前 処 理	液体窒素処理サンプルを用いる
プロトコール	Genomic DNA Extract program (本体に標準インストール)

—目的—

MagGenex PNE-1080及びMagGenex Genomic DNA抽出用キットを利用してマウスの各組織からゲノムDNAを抽出し、収量と純度を吸光度計により測定することを試みます。また、抽出したゲノムDNAの一部をテンプレートとしてPCR反応を行い、標的遺伝子の増幅が可能であることを確認します。

—方法—

マウスの組織はハサミで2～5mm位になるように細かく切り、液体窒素にて凍結させ、乳鉢で粉碎した粉をサンプルとしました。その粉（30 mg）をプレパックの①番に導入しました。

## —結果—

## 1. 吸光度測定の結果と算出した濃度及び純度

A 260	0.35 ~ 0.45
A 280	0.20 ~ 0.27
A 320	0.09 ~ 0.095
濃度 (μg/ml)	13.0 ~ 18.0
純度 (A <sub>260</sub> -A <sub>320</sub> ) / (A <sub>280</sub> -A <sub>320</sub> )	1.80 ~ 2.00

## —電気泳動結果—

溶出したgenome DNA (5 μl) をアガロースゲル電気泳動により確認しました。

M 1 2 3 4 5 6 M

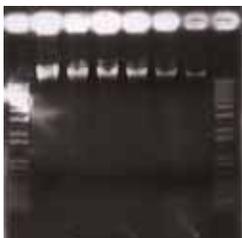


Fig. Genomic DNA derived from mouse tail

M: 1kb marker

1~6: genomic DNA

1.0 % Agarose gel

## —考察—

MagGenex PNE-1080を用いることで特殊な前処理を必要とせずに、高純度なゲノムDNAの抽出が可能であることが確認されました。また、PCR反応によりターゲットの特異的な増幅が確認されたことから、抽出されたゲノムDNAはテンプレートとして適していると考えられます。

株式会社 **マルコム**

 **コスモ・バイオ株式会社**